

輝く 田底っ子

第43号

文責：校長 益永 一幸

田底小 スローガン

① 自分と周りの人を大切にしよう

② 自ら進んで学び、互いに高め合おう

12月学校集会「みんなちがって みんないい」

～みんなと私どちらも大切に～



6月の学校集会で、まどみちおさんという人が作った「ぞうさんの歌」のお話をしました。覚えていませんか。子どものぞうさんは、友だちから「お前の鼻は長いのね。」といじめられました。でもお母さんぞうは、「お母さんも長いよ。それはぞうの個性なの。だから、みんなちがって、みんないいのよ。」と教えました。という話をしましたね。

みなさんは、「みんなちがって、みんないい。」という意味は分かりましたか。実は、この「みんなちがって、みんないい。」という言葉は、詩人である、金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩の中にある言葉なのです。では、その詩を紹介します。

題 「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても、お空は ちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。

この詩の最後に、「みんなちがって、みんないい」という言葉があり、その前の言葉には、なぜか、「鈴と、小鳥と、それから私」と書かれています。詩の題名では、「私」が最初でしたが、詩の最後の言葉では、「私」を最後にもってきています。それは、なぜでしょうか。

実は、金子さんは、「みんながいるから私がいる。みんなと私は、どちらも大切」と考えていたから、「鈴」と「小鳥」を最初にもってきたのです。その気持ちを込めて、金子さんは「みんなちがって、みんないい」と言ったのです。

さて、皆さんは、金子さんのように友達や周りの人のことを大切にしていますか。友達や全てのものを自分と同じように大切にしようと思えたなら、きっと、「みんなちがって、みんないい」の意味が分かるようになると思います。



あっ田底に！ステキな歴史 NO. 8

平島温泉小唄の紹介

作詞・作曲 松本恒次郎

- 1、 明治三十一歳の春に 温泉が 開けて益々繁昌せん さて、めでたいな御祭
- 2、 平と島とに温泉双方に 相わかれ 中をへだてる合志川 水済々と流れゆく
- 3、 老いも若きもみな打ち揃うて 人とうせん四百四病の 病とてこの湯で治らぬ人はない